

三方五湖学習

昔の水辺の風景絵画作品

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により夏休みの期間が短縮されていた中、7点の応募がありました。平成19（2007）年度から令和2年度までに累計で1,297点の応募がありました。これは、1,297回にわたって、子供たちが“おじいさんやおばあさん、近所の人に、子どものころ（昭和時代）の水辺（湖や川、田んぼ）の様子を聞いて、絵に描く”ことに取り組まれたこととなります。

昔の水辺の風景画に取り組んでくださった皆さま、ありがとうございます。



自然再生関連会議等開催情報

- ◆湖と田んぼのつながり再生部会
 - ・令和2年11月28日…部会会議、研修会
- ◆外来生物等対策部会
 - ・令和2年9月16日…部会会議
 - ・令和2年11月5日…部会会議
- ◆しじみのなぎさ部会
 - ・令和2年8月31日…部会会議

最新情報は
↓こちらから



三方五湖のなかまたち

ヨシ（イネ科ヨシ属）

・全国の湖沼、河川敷、湿原などに生育する大型の多年草。群生することが多く、ヨシ原を作り、水鳥や魚類、昆虫などの生息場所にもなる。



- ・高さ：1～3m
 - ・花期：8～10月
- 茅葺屋根や、簾（すだれ）、葦簀（よしず）の材料などとして使われてきた。

三方五湖の自然とめぐみTOPICS

三方小学校・谷保教諭が博報賞受賞

若狭町立三方小学校の谷保裕子教諭が、17年以上継続してこられた環境保全学習（子どもたちと共に学び、活動し、より良い地域をつくる取組）において、博報賞を受賞されました。この度は、「三方五湖の自然再生への道を、子ども・地域の人々と共に探る」をテーマとした活動について受賞されています。

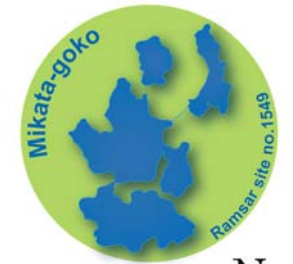
博報賞とは…
公益財団法人 博報堂教育財団が、日々教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者の「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰

問合せ先

- 福井県安全環境部自然環境課
〒910-8580 福井県福井市大手三丁目17番1号
TEL 0776-20-0305
- 美浜町住民環境課
〒919-1192 福井県三方郡美浜町郷市第25号25番地
TEL 0770-32-6703
- 若狭町環境安全課
〔三方庁舎〕
〒919-1333 福井県三方上中郡若狭町中央第1号1番地
TEL 0770-45-9126
- 若狭町歴史文化課縄文環境室
〔若狭三方縄文博物館内〕
〒919-1331 福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-12-1
TEL 0770-45-2270

このニュースレターは「令和2年度生物多様性保全推進交付金（環境省）」を使用しています。

三方五湖 ニュースレター



No. 23
令和2年12月1日発行



海山漁協 フナ・コイ育成田の稚魚取りあげ

目次

アカミミガメの一斉捕獲を実施しました シジミの資源量調査 1
昔の水辺の風景画ワークショップ 海山漁協 フナ・コイ育成田の稚魚とりあげ 2
三方五湖学習、自然再生関連会議開催状況、 自然とめぐみTOPICS、三方五湖のなかまたち 3

アカミミガメの一齐捕獲を実施しました

令和2年8月5～8日の日程で、三方五湖でのアカミミガメ(通称:ミドリガメ)一齐捕獲を実施しました(参加者数:延べ69人)。8月5日に関係者にて、アカミミガメ捕獲のためのご罾を仕掛け、8月8日に、一般参加の方も交えて、三方湖、水月湖、菅湖、久々子湖に分かれ、かご罾を引き上げました。

仕掛けたかご罾は全部で35個で、小魚を誘引餌として仕掛けられました。

今回の一齐捕獲では、全体で24個体のアカミミガメを捕獲して駆除しました。捕獲の際には、アカミミ

ガメの他、ニホンイシガメの捕獲もありましたが、これらの在来種は、その場ですぐに放流しました。

参加された方々は、今回の一齐捕獲を契機に、毎年一齐捕獲に取り組むことで、アカミミガメのモニタリングと低密度化に取り組むことを確認しました。

三方五湖では、平成30年度、環境省の支援を得て「三方五湖アカミミガメ防除実施計画」を策定しています。この計画では、近年増え続けており、農業・水産業や生態系に悪影響を及ぼすアカミミガメの生息を低密度に抑えることを目標としています。



参加者によるかご罾の引き上げ



アカミミガメの生態等についてのお話(福井県立大学 富永教授)



捕獲されたアカミミガメ

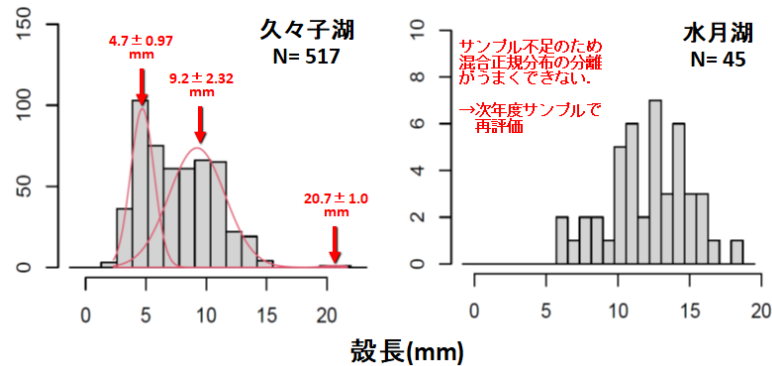
シジミ資源量調査

今年度は、久々子湖と水月湖において、地元漁協立ち合いのもと、シジミの資源量調査がおこなわれました。調査は、久々子湖と水月湖それぞれで採集したシジミのサンプルについて、殻長(殻の長径)を測定し、各湖に生息するシジミの大きさについて情報を得ました。

今回の調査は、今後、“資源管理に必要となるサイズ組成の調査を他産地と比較可能な形でモニタリングする”ための最初の調査として実施されました。今後は、毎年9月に調査を継続実施し、シジミの資源量について把握していく予定です。

◆今年度の調査結果

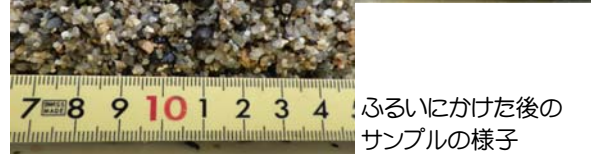
久々子湖と水月湖におけるシジミの殻長ごとの数量の分布



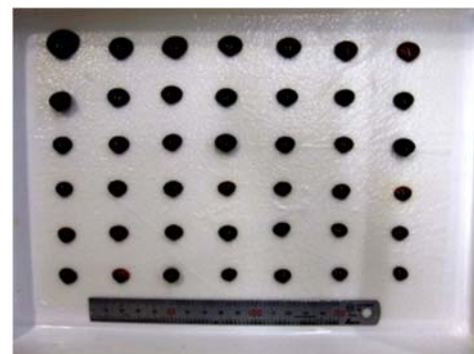
※分析等: 福井県里山海湖研究所 宮本研究員 (科研費、総合地球環境学プロジェクト研究費活用)



湖底から砂やシジミなどの底生動物を採集しふるいにかける



ふるいにかけた後のサンプルの様子



シジミだけを取りだし画像撮影(画像処理により殻長を算出)

昔の水辺の風景画ワークショップ 久々子湖編・梅の里編

「昔の水辺の風景画」を題材にした、「三方五湖 水辺の絵画ワークショップ」が、9月26日(土)午後15時から久々子湖畔(美浜町)にて、9月27日(日)午前10時から若狭町田井野にて開催され、静岡大学より富田涼都准教授(環境社会学)にお越しいただきました。

今回のワークショップでは、これまで応募のあった水辺の絵画を分析した富田准教授のお話をお聞きした後、実際に屋外にて、昔の水辺の遊びの先生と一緒に「昔の水辺の遊び」を体験しました。



久々子湖では…昔の遊びの先生と一緒に、カニやエビのなかまを捕まえました。

2015年の応募作品

昔は川岸は草土手で(今はコンクリート)、川ガニやナマズ、うなぎ、ドロマンがいた。しょうけという竹のざるで「キャーキャー」いいながらすくって遊んだ。



梅の里では…昔の遊びの先生と「しょうけ」を使って、生きものをすくってみました!!

「しょうけ」で捕まえた生きもの
・ドジョウ
・イモリ



「昔の水辺の風景画」は、10年以上の取組になりました。そして、応募された作品は1000点を越えます。水辺の風景画を始めた頃より研究者の立場で関わって下さった富田涼都先生(静岡大学准教授)が、このたび、水辺の風景画を題材にした研究論文(「野生生物と社会」学会査読論文)を発表してくださいました。インターネット閲覧できます。ぜひご覧ください!
https://www.jstage.jst.go.jp/article/cwshs/8/0/8_5/pdf

海山漁協 フナ・コイ育成田稚魚とりあげ

令和2年9月14日、菅湖畔のフナ・コイ育成田にてフナ・コイの稚魚とりあげ作業が実施されました。

菅湖畔では、海山漁業協同組合により三方五湖湖畔で採ったフナ・コイの卵を水張り休耕田に入れて稚魚が育成されています。毎年9月に、関係機関が協力して稚魚を計数・計測調査し、漁協が設定する増殖目標量に達しているか調べています。

一方で、この作業には、たくさんの労力も必要です。そこで今年度は、気山小学校5年生も新たに調査に参加し、休耕田で育苗されたフナ・コイの計数・計測を行いました。子どもたちは、おもに休耕田に残った稚魚の救出作業をしました。皆で力をあわせて、取り逃がしが無いよう、タモ網を使って丁寧に救出しました。計測が完了したら、皆で放流。小さな稚魚が、大きく育つことを願って湖に帰しました。



小学生による稚魚採集 育成田からとりあげた稚魚